

第35回 R Y L A (ロータリー青少年指導者養成プログラム) セミナー

日時 2012年2月18日(土)～19日(日)
場所 「一宮少年自然の家」

「ライラ参加して」

朝岡良太 様



はじめまして、千葉興業銀行
小金支店の朝岡良太と申します。先日開催されたライラに参加させていただきました誠にありがとうございました。一日目のウォークラリーでは、完走することができず大変悔しい思いをしましたが、二日目は前日の反省を活かしチームで協力し、無事完走することができました。ライラを通じ、悩んだら1歩立ち止り考える。仲間と相談する等、仕事の面においても大変に重要なことであると感じると共に「自分の心を見つめる。」大事な時間となりました。

また、様々な年代や業種の方と触れ合えること、自らの視野を広げられたことが、ライラの素晴らしさであると実感しました。貴重な経験をさせていただき、感謝申し上げます。本日はありがとうございました。



 **ニコニコBOX**

鈴木悦朗会長

今日は 山本会員に卓話をさせていただき 齋藤和實会員より梅が届き 入会希望者の庄司さんやライラに参加したフレッシュな朝岡さんに来ていただきました。例会場がいっぱいになるのは気持ちいいですね。今後ともよろしく申し上げます。

小林 弘会員

先日(2/24金)には 新入会員の(愚息)歓迎会を開いていただき 多数の会員の方々にご出席を頂きましたこと厚くお礼申し上げます。今後とも 種々のご指導の程よろしくお願い申し上げます。

小林辰幸会員

歓迎会では多くの方からあたたかいお言葉を頂きありがとうございました。今後ともご指導の程 よろしくお願い申し上げます。



WEEKLY REP  RT

**国際ロータリー第2790地区第12分区
松戸北ロータリークラブ**



四つのテスト

- 言行はこれに照らしてから
- 1・真実かどうか
 - 2・みんなに公平か
 - 3・好意と友情を深めるか
 - 4・みんなのためになるかどうか

第1908回 例会 (第 33 週) 2012年 2月28日(火)

国際ロータリー会長カルヤン・パネルジー
第2790地区ガバナー 山田修平
第12分区ガバナー補佐 安井克一
松戸北ロータリークラブ会長 鈴木悦朗
松戸北ロータリークラブ幹事 児山守治

例会日 - 毎週火曜日12:30より(第1例会18:30)
例会場 - 松戸市根木内249-7 北小金ポウル1F
事務所 - 松戸市根木内249-7 榊山安内
TEL/FAX - 047-344-5696 / 047-344-5696
Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp



ロータリーの実践倫理

「最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves best.

《会報・IT・雑誌
・広報委員会》

委員長：伊師 剛迪
委員：平田 洋一

副委員長：大川 隆永
委員：高崎 卓哉

社会奉仕基金
3,938円

The Ideal of Service (奉仕の理想) にむけて夢を追いかけよう

 会長挨拶：鈴木悦朗

皆さんこんにちは。

しばらくあたたかい日が続きましたが、今日は寒いですね。朝のおつとめで合掌している手がかじかんでしまいました。三寒四温とはよくいったもので暖かい日もあれば寒い日もあり、春にむけてリズムを刻んでいます。

今日は齋藤和實会員が綺麗に咲いている梅を持ってきてくれました。嬉しいですね。あらためて拍手をお願いいたします。

さて先日、天野 敦之の「**宇宙を感じて仕事をしよう**」(幸せに働くために大切なこと)という本を読みました。

「君を幸せにする会社～経済を回復させるたった一つの方法」の著者 天野 敦之さんの本です。天野さんは一橋大学商学部経営学科卒業。大学卒業後、証券会社の投資銀行部門でM&Aや資金調達のアドバイザー業務等に従事し、多くの企業の財務会計をみてきた方です。その後、公認会計士天野敦之事務所を設立し、財務会計の視点から、人の幸せと企業の利益を両立させるためのアドバイスを提供しています。

「奪い合い」の時代から、「分かち合い」の時代へと、いま大きな変化のうねりの中にある。これから私たちはどんな生き方・働き方をしたらよいのか？ まず働いているあなたが幸せになることだ、と著者はいっています。なぜなら、いまお客さまが求めているのは、喜びや感動、幸せといった、より本質的な価値だからです。これまで価値を生みださずに「他者から奪う」ことで利益を上げてきた企業は、これから淘汰されていく。本質的な価値を創造し続けることがビジネス成功の鍵であり、条件である。「幸せに生き、働く」ために何をすべきか？ をじっくりと語り尽くした本です。

【目次より】

- 第1章 働くとは、幸せを創造すること
- 第2章 三つの軸を広げると、生き方が変わる
- 第3章 手ばなせば、もっと楽に生きられる
- 第4章 幸せをもたらす人生のバランスシート
- 第5章 つながりを取り戻すために
- 第6章 天命を知り、生かされて生きる

人と人のつながりがキーワードであり、その絆を深めるには、相手がどうであろうと、常に愛に満ちた最高の自分で、本気で向き合うことですが、私たちはつい、相手がどうであるかによって、自分の態度を変えがちです。相手が信頼してくれたら、こちらも信じる。相手が愛してくれたら、こちらも愛する。そうではなく、相手がどうであろうと、とにかく信じる。相手がどうであろうと、とにかく愛する。ロータリーのよく奉仕するものは報われる、超我の奉仕の精神に似たものを感じます。

そういえば、先日紹介した川上徹也さんの「モテる会社・小さいけれどみんなが好きになる」という本も表現は違いますけれど、同じようなことが書かれていましたね。

ロータリーは今世界最大のボランティア団体といわれていますが、当初のロータリーは互惠クラブであり、人に喜ばれる会社になるための経営哲学の勉強会でした。人に喜ばれることの追求、ロータリー奉仕の理想にむかって、会員それぞれの会社が「つながりを大切に」モテる会社にならんことを願っております。

さて今日は当会の会員で鎌ヶ谷総合病院院長の卓話です。山本穰司先生も一般には雲の上の人であります。松戸北ロータリーのご縁で、こういった場で話が聞けるのです。

「つながり」あらためて大切にしたいですね。それでは「日本のガン医療の最前線」みなさんどうぞご静聴ください

 幹事報告：児山守治

1. 例会変更のお知らせ
松戸中央ロータリークラブ
3月8日(木) 例会臨時変更 鐘12:30
東葛クリニックにて健康診断

「日本のガン医療の最前線」



山本穰司 会員

昨年11月8日にお話しさせていただいた「がん」に関する話の続きです。

前回は、「がん」とは何か、がんの死亡率など疫学的な話をさせていただきました。

今回は、治療についての話となります。

特殊な治療法を除いて、「がん」の治療は、外科的治療・抗がん剤による化学療法・放射線治療が三本柱です。

外科的治療とは、手術によってがんを取り除くということですが、最近は、いかに患者さんに負担の少ない手術をするかということがテーマとなっています。具体的には、以前から行われている開腹手術のほかに、腹腔鏡というおなかの中にカメラを入れて、それをテレビモニターで見ながら、体表から挿入した器具を使って病巣を取り除き、小さな傷から体外に取り出すという手術です。大腸がんではかなり行われていますが、胃がんでは早期がんに限られています。その他のがんに対しては、実験段階です。

抗がん剤は、1年に何種類もの新しい薬が開発、発売されるなど、近年目覚ましく発展しています。さらには、分子標的薬といって、がんの遺伝子に作用する薬も保険適応となっています。

大腸がんで例えるなら、10年前は、手術不可能な超進行状態の平均生存期間は10カ月程度でしたが、現在は、抗がん剤を何種類も組み合わせることで、3年近くになっています。また、その副作用もかなり軽くすることが可能となっています。

放射線治療は、以前は体外から病巣近傍に照射して、がん細胞のDNAを破壊することでがんを治療するという仕組みでしたが、現在の放射線治療機械は、コンピューターで治療前に立体的な照射範囲を設定することができるため、がん以外の正常組織に放射線が当たらなくなり、そのことで副作用も減るとともに、治療効果も高くなっています。たとえば、前立腺がんなどは、手術をするのとほとんど変わらない成績までになっています。

がんに対して、どの3本柱を使うかは、がんの発生場所、がんの細胞の種類、進行度などによって決定しますが、集学的治療といって、その3本柱をうまく組み合わせることで治療することが大切なのです。

がんに対して、どの3本柱を使うかは、がんの発生場所、がんの細胞の種類、進行度などによって決定しますが、集学的治療といって、その3本柱をうまく組み合わせることで治療することが大切なのです。

(別紙に図と写真をのせました)

本日のお客さま 庄司 進様



ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」Service above self

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。